

地域で協力！ 来場者アワビ・エゾバカガイを堪能！

第21回

あわびの里 フェスティバル 来場者約2万人

5月17日、熊石青少年旅行村で第21回あわびの里フェスティバルが開催されました。会場では熊石産のあわび・エゾバカガイなどが販売され、来場者の舌を楽しませました。ステージでは、日本海はまなす太鼓の演奏や相沼奴道中などのイベントで会場を盛り上げました。

刀禰委員長は「去年の秋に実行委員会で作るかやらないかという話になった時、今まで地域で育てたこのイベントを、熊石の元気のために続けることになった。海が荒れ、エゾバカガイの提供が危ぶまれたが、漁師の皆さんが頑張ってくれ用意出来た。新たな気持ちで今後も取組みたい。」と語りました。岩見沢市から来た来場者は「毎回楽しみで参加してきた。その場で焼いて食べるのが醍醐味。おいしい。」とあわびを頬張りながら語ってくれました。

また、来年春に閉校になる熊石高校の生徒3人は、熊石の特産物のアンケートなどを手伝いました。生徒たちは「今までお世話になった地域の皆さんへの恩返しの気持ちからみんなに参加することにした。」と笑顔で語りました。



地域一丸、輪禍防止を！ 交通事故ゼロを目指して！ 春の交通安全運動

新たな年度を迎え、交通事故防止のため町内各所では様々な取組みが行われました。

八雲地域では4月25日、八雲町スポーツ少年団本部が主催となり、11団体が総合体育館から八雲警察署まで各団員が交通安全旗を持ち交通安全を呼びかけました。

また、町内在住の長谷川正二さんは、交通安全の啓発のため道内の市町村役場などから収集したという地域毎の安全旗77本を地域ボランティアの方と共に、4月28日から立岩の国道5号線沿いに並べ、国道を走る車に事故防止の注意を喚起しました。この旗は現在一部を内浦町の国道沿いに移し、引き続きドライバーに対し交通事故の注意を促しています。

春の全国交通安全運動初日の5月11日、八雲・熊石地域にて1年の無事故や交通安全意識の高揚、事故防止の誓いを新たにする町交通安全運動推進委員会（岩村克詔会長）主催の交通安全祈願祭（八雲神社・根崎神社）及び「旗の波作戦」が行われました。町内の交通安全団体や八雲警察署、事業所などの関係者が出席し、玉串を捧げて交通安全を祈りました。

祈願祭終了後、八雲自動車学校前、熊石総合支所前で、「スピード落とせ！！」と書かれた横幕や、安全運転啓発用の旗を振り、国道を走るドライバーらに安全運転を呼びかけました。

